



本記事は、日本レディフュージョン株式会社の「オーディオビジュアル・インストレーション『QUARO × SUPPOSE DESIGN OFFICE × Nippon Rediffusion Limited 五感を呼び覚ます音響デザイン』」から一部を転載しています。

東京原宿キャットストリートに誕生した、コーヒーとカルチャーを融合した4フロアの感覚体験スペース「QUARO (クアロ)」。「ろ過」をテーマに、都市の速度に疲れた人々が五感を呼び覚まし、自分のリズムを取り戻す……そんな空間にふさわしい音響設計とは？ QUAROのマネージャーである佐々木彩人氏、空間設計を担当したSUPPOSE DESIGN OFFICEの銭嘉玥氏、音響設計施工を担当した日本レディフュージョンの伊藤寛武氏に、コーヒーと音楽の関係性について話を聞きました。

「音が落ちてくる……」コーヒーとともに新しい体験にひたり、五感が呼び覚まされる

佐々木:4層構造のビル1棟から成る「QUARO (クアロ)」は、「Quad / Quattro (= 4) + RO (濾・ろ)」を結んだ造語になります。階層と抽出という2つの意味が込められて、お店の名前になりました。

賑わいのある裏原宿の地に、喧噪から離れて「自らの五感を取り戻すような場所をつくりたい」というオーナーの想いから誕生し、コーヒーから感じられる香りや味わい、光の温度や流れる音にこだわっています。

コーヒーを提供するフロアは地下1階から2階までとなり、フロアによってコンセプトやメニュー、そしてお客様が得られるインスピレーションも異なるのが特徴です。QUAROのオーナーは非常に探求心が旺盛で、個人では到底持たないようなコーヒーの抽出ツールをコレクションしているなど、1つひとつにこだわりを持っています。

銭: 空間設計を担当した際、オーナーさんから「このブランドのスピーカーを使いたい」といったお話もいただきました。ただ、実際の空間に相応しいかどうかは緻



右から QUARO マネージャー 佐々木 彩人さま、SUPPOSE DESIGN OFFICE 銭 嘉玥さま、日本レディフュージョン 伊藤 寛武 さま

密な計算が必要で、コスト面もふまえて考えたいと思いました。

そこで、海外製品も含めて幅広い音響機器を取り扱う日本レディフュージョンさんに音響設計を依頼し、オーナーさんのご要望も伺いつつ検討していきました。

伊藤:「天井の穴から音が落ちてくる」といった珍しい音響設計も担当させていただきましたね。QUAROのように各階のコンセプトが異なり、それゆえに各階に合わせて全く異なる音響設計をする必要があるという事例は珍しいものでした。フロアごとにコンセプトと内装デザインとの調和に配慮しながら、最適な音響機器を選定して設置していきました。



「この音楽はどこから……？」隠されたスピーカーから、ポップな音が流れる1階

銭：流れ(Flow)と名付けられた1階は、お客様を迎える顔となる階です。音質を求めつつも、スピーカーの存在を感じさせない空間づくりを目指しました。ご提案いただいたのが、アメリカ製の SONANCE Invisible シリーズ IS8T という隠蔽型スピーカーです。壁のなかに設置し、左官仕上げて塗り込んで見えなくすることで、インテリアに焦点が当たる空間に仕上がりました。スピーカーを両壁に各1台ずつ入れているため、最終的に空間のなかで音が広がって残響が感じられますね。それは伊藤さんの狙いかもしれません。

伊藤：もちろん、そのような効果を狙ってはいいたのですが、天井も含めてここまで空間全体が響くように聴こえるようになるとは予測できませんでした。スピーカーを、耳の高さより上に付けたことも影響しているかもしれません。音像が上からふわっと聴こえるように調整しています。

また、BGMは通常モノラルで再生することが多いのですが、こちらではステレオで再生しています。右側と左側のスピーカーから流れる音は少し異なり、それゆえにしっかりと音の存在感が出ることを狙っています。

銭：天井に取り付けるスピーカーもあるのですが、ありきたりな空間になりそうで、もう少しコンセプトualな音響設計をお願いしたい、と今回は伊藤さんに伝えました。ここはテイクアウトの階ということもあり、アップテンポで低音を効かせた音が流れていますね。他の階と比べてポップな音質を感じます。

佐々木：多くのお客様には、壁にスピーカーが埋め込まれていることはわからないと思います。テイクアウトメインフロアということもありお客様の滞在時間は短いです。パッと入店されてインテリアの写真を撮って行かれる方も多そうですね。初夏の晴れた日は、すぐ外にある岩のベンチで過ごされるお客様も多く見かけました。お店のドアが開いているので、流れる音楽もお楽しみいただいていると思います。

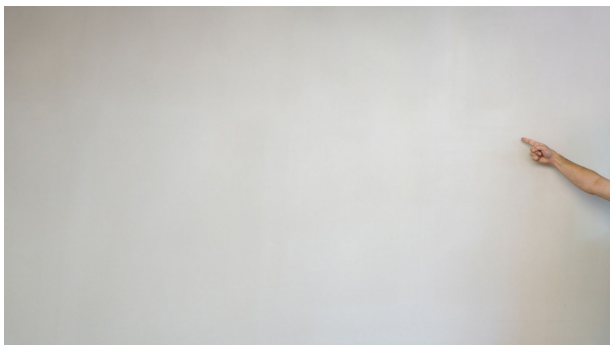
Sonance Professional IS8T 完全に姿を消すスピーカー

QUARO 1階「Flow」の壁面には、Sonance Invisibleシリーズの「IS8T」が埋め込まれています。その上から壁材が塗り込まれており、表面からはスピーカーの存在がまったくわからない隠蔽状態になっています。

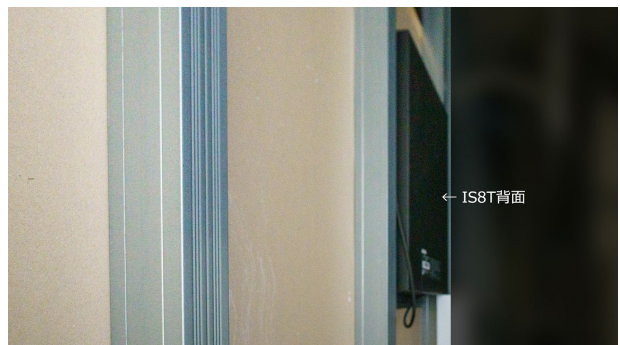
Sonance Invisibleシリーズは、当初からこのような施工を前提として開発されており、最大3mmまでの上塗り材(仕上げ材)に対応しています。また、上塗り材の素材としては、ドライウォール(石膏ボード)や特定のプラスター(漆喰)のほか、



壁紙、レザー、木製突板などにも対応しており、多様な仕上げが可能です。IS8Tは180度の広い指向性を持ち、「Flow」の店内隅々まで明瞭度の高い音を届けています。



指を指した位置にIS8Tスピーカーが埋め込まれている。目視では確認できない



壁裏からの撮影

QUARO

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 4-25-32

<https://quaro.jp/>